

色が濃く、収量が多いイチゴ新品種「佐賀 i9 号」					
〔要約〕 <u>イチゴ</u> 「佐賀 i9 号」は、「佐系 14 号」に「やよいひめ」を交配して育成した促成栽培用品種である。果実は濃赤色で果肉まで赤く、「さがほのか」より果数が多く、 <u>収量</u> がかなり多い。					
佐賀県農業試験研究センター 野菜花き部・野菜育種研究担当			連絡先	0952-45-2143 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	野菜	専門	育種	対象	イチゴ

#### 〔背景・ねらい〕

佐賀県が育成した促成栽培用イチゴ品種「さがほのか」は、早生で連続出蕾性があり、果形の揃いが良く、適度な硬さで日持ち性に優れるなどの栽培し易さから、九州地方を中心に普及し、全国 2 位の栽培面積を占める。しかし、果皮が鮮紅色で、糖度が時期によりやや低く、果数が少なく早期収量が少ないことから、それらを改善した新品種が望まれている。そこで、果皮の色が濃く、食味が良好で、多収量を育種目標に、ポスト「さがほのか」となる新品種を育成する。

#### 〔成果の内容〕

1. 「佐賀 i9 号」は、2010 年に本県育成系統「佐系 14 号」を種子親に、群馬県育成「やよいひめ」を花粉親として交配し、得られた実生から選抜した一季成り性の促成栽培品種である（図 1）。
2. 草姿はやや立性で（表 1）草勢は強く、草丈は「さがほのか」より高い。葉色は「さがほのか」より薄く、光沢は弱い。芽数は「さがほのか」と同等～やや多い（データ省略）。
3. 花芽分化は「さがほのか」より遅く（データ省略）、収穫開始は 12 月上中旬である。腋花房の連続性出蕾性は「さがほのか」より劣る（表 2）。
4. 果実は「さがほのか」よりやや大きい円錐形である。果皮は濃赤色で、果肉は赤色である。糖度は「さがほのか」並みで、適度な酸度と爽やかな香りがあり、食味が優れる。果実硬度は「さがほのか」よりやや硬い（図 2、表 1・2）。
5. 頂花房の花数は 20 花前後で（データ省略）、商品果数は「さがほのか」より多い。1 果重は「さがほのか」よりやや重く、早期収量および総収量は「さがほのか」よりかなり多い（表 2）。

#### 〔成果の活用面・留意点〕

1. 炭疽病抵抗性はないので、無病親株の確保、雨よけ育苗および薬剤防除を徹底する。
2. ハダニが発生しやすいため、天敵の放飼を行い、早期発見や気門封鎖剤と感受性の高い薬剤による効果的な防除に努める。
3. 果数が多く、高次の果実までよく肥大するので、着果負担軽減のために草勢に応じた摘果を行う。
4. 先青果や角出し果が発生する場合があるので、栽培期間を通じ、栄養成長と生殖成長のバランスが極端に偏らないようにする。
5. 品種登録出願公表中である（2016 年 5 月 31 日第 30805 号）。

[具体的なデータ]

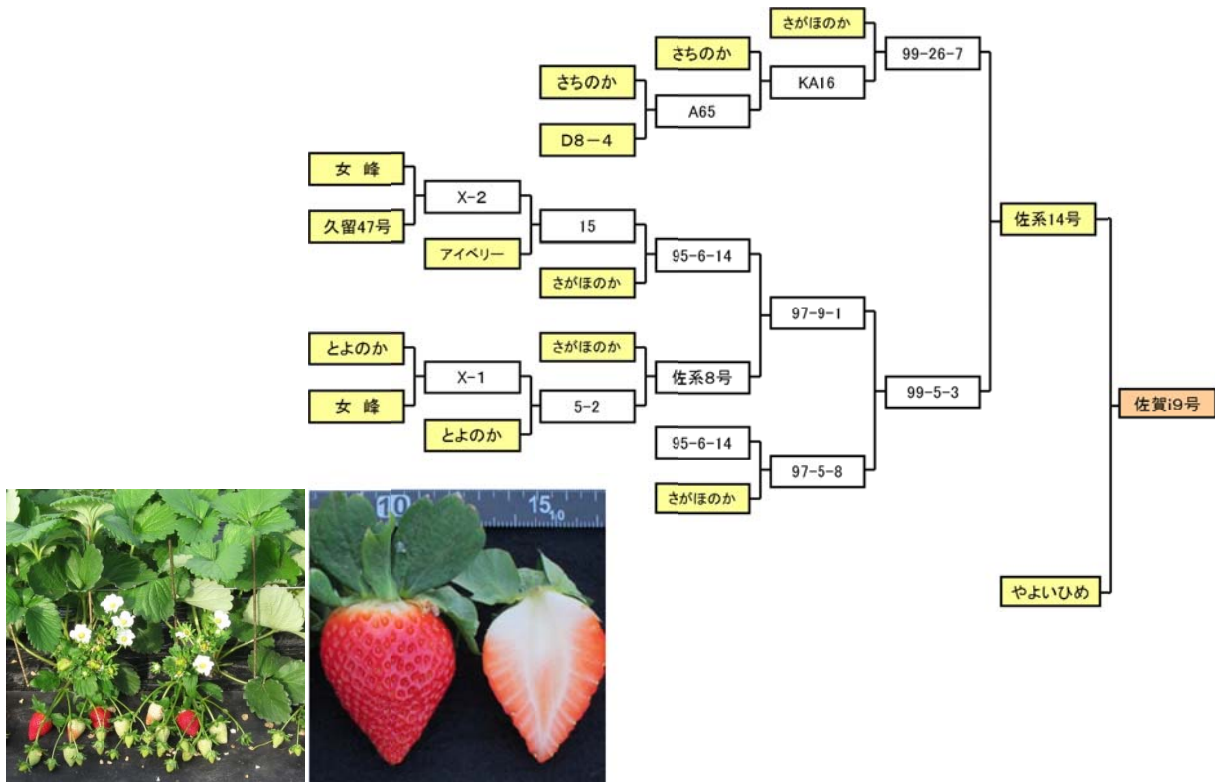


図1 「佐賀 i9 号」の系譜および外観

表1 「佐賀i9号」の形質および特性<sup>2</sup>

	草姿	果実の 大きさ	花の数	果実の形	果皮の色	果肉の色	果実の 成熟期
佐賀i9号	やや立性	大	やや多	円錐形	濃赤	赤	中
さがほのか	やや立性	やや大	やや少	円錐形	鮮紅	白	早

<sup>2</sup> 農林水産省の植物種類別審査基準による

表2 「佐賀i9号」の収量および果実特性<sup>2</sup>

品種名	収穫開始日(月/日)			総収量 (g/株)	商品果収量(g/株) <sup>y</sup>		商品 果数 (個/株)	平均 1果重 (g)	果皮色 <sup>x</sup> L*b*/a*	糖度 (Brix%)	果実硬度 (g/3mm φ)	
	頂花房	第1次 腋花房	第2次 腋花房		早期 11~1月	全期 11~4月					果皮	果肉
佐賀i9号	12/8	2/7	3/31	862	310 (123)	810 (120)	49.6	17.0	20.0	8.5	87	41
さがほのか	11/29	1/17	3/6	707	253 (100)	674 (100)	45.5	15.5	26.9	8.6	78	34

<sup>2</sup> 野菜育種および野菜栽培研究担当の2014~2015年の2か年の平均値

<sup>y</sup> 7g以上の可販果

<sup>x</sup> 数値の小さい方が濃赤

[その他]

研究課題名：いちご次世代品種緊急開発プロジェクト

予算区分：県単

研究期間：2010~2016年度

研究担当者：岡和彦、伊東寛史、中島寿亀、西美友紀、緒方千佳、大坪竜太、木下剛仁、中尾雅明、中山裕介、田川愛